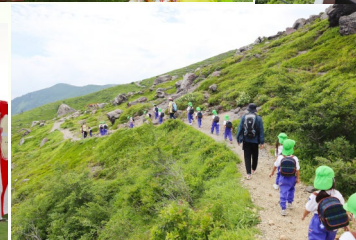
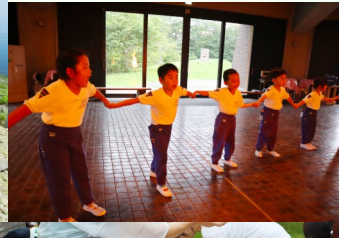


萌丘東幼稚園
萌丘東保育園 ほいくだより

2023

ひがしっ子 8月



今年度はお泊り保育や夏祭りが例年通り実施することができました。夏祭りには多くの保護者に参加してもらって、こども・保護者・保育者の3つがあるから作り出せる雰囲気を感じていただけたのではないのでしょうか。

さて、今回は脳の発達順からみた子育てについて考えてみたいと思います。

※個人差がありますので、子育てを振り返る参考にして欲しく書きます。

①幼稚園や保育園の0～6歳にとって、まずスタートするのが体を司る脳の発達です。ここでいう体とは、寝る、起きる、食べる、体をうまく動かすこと等のことで、それに必要な口や手、脳の指令を司る部分です。

②次に体の脳の発達に並走するように発達するのが大脳新皮質で、1歳～18歳（主に6～14歳）に言語機能や思考、スポーツの技術的なものを司っており、小中学生の学習を中心に時間を掛けて成長し、習い事や課外体験等の経験も含まれてきます。

まとめると、①の成長が先に始まり、その成長具合に合わせて②が成長するということです。0～6歳にとっては体づくりを十分におこなって脳に刺激を与えることが土台に必要ということになります。合わせて、学習的なものは覚えるということを主題にせず、興味を広げる体験として取り入れていくのが、脳の発達の的には丁度いい時期であると言えます。

これらの脳の発達に大切にすべきことは食事・睡眠・運動につきます。ただ、それを行行動に移しやすいように、「食べる練習ではなく歌を歌って口を動かす」「寝る練習ではなく公園に行って体を動かす」「クレヨンの練習ではなく絵を描いて指先を動かす」といったこどもに親しみやすい遊びや習慣にする工夫が必要でしょう。そして、それを親と一緒に進むと、こどもは集中しますので脳の発達も高まります。

脳の発達を追っていくと幼稚園や保育園で日常的に行われていることと一致していることがよく分かります。子育てに戸惑ったら、①の時期なのに②が増えすぎてないか等、自分の子育てを振り返る参考になれば幸いです。

参考までに次の段階は、小学校高学年の10歳～となります。①と②を土台にして、人間的な論理的思考を行う問題解決力が発達してきます。わかりやすく表現すると、大人と同じように物事を考えるようになってくると言えます。一例として、大人は納得しないと行動したくないのと同じような姿が顕著に表れてきます。

0～2歳児クラスの1か月

水遊びの楽しさがわかってきた

0～2歳児クラスは外でわんぱくに走り回る！と言うよりは、涼をとりながら水遊びを楽しんだり、室内で遊んだりする姿が多くみられました。ただ、感染症が流行ったこともあり、受け入れ基準について再検討していく必要を感じた時期でもありました。



3～5歳児クラスの1か月

夏のイベント

今年は保護者と一緒になって夏祭りができて本当に良かったと思います。様々な地域のイベントのある夏ではありますが、こうやって東園でみんなで過ごすことが一番子ども達らしく過ごせているのではないのでしょうか。



